

12月定例議会 町政報告

令和6年第7回小坂町議会が12月4日から11日までの会期で開かれ、条例改正・補正予算等16議案が可決されました。町政報告の要旨をお伝えします。

町政報告要旨

▼除雪体制

7月25日、「小坂町雪対策連絡協議会」を開催し、今冬の活動方針や除雪計画等を説明し、意見交換しました。

今年度も、高齢者世帯等の除排雪作業の負担軽減を図るため、自治会内の共助により取り組まれている「あんしん除雪支援事業」を実施するとともに、「町内除雪デー」への協力など、町民に必要とされる施策を引き続き実施していくほか、空き家などからの落雪対策などについてもあわせて検討していきます。

道路除雪については、昨年度と同様、主要な路線を小坂まちづくり株式会社に委託するほか、大地地区においては引き続き自治会で地域内の除雪を実施します。

また、地域の要望を聞きながら冬期生活に支障が生じないよう除排雪作業を実

施し、安全で安心な道路を確保するほか、町内道路の除雪がスムーズに進むように、国・県道を管理する秋田県との連携を、より一層深め安全で円滑な除雪を実施できるよう努めます。

町では、議会や町民の皆様のご理解、ご協力を得ながら、引き続き町民にやさしい、満足度の高い「安心・安全除雪」を目指します。

▼自主防災組織育成指導者研修会について

11月14日、町内の自治会を対象とした「自主防災組織育成指導者研修会」を開催しました。

この研修会は、災害発生時に重要な役割を果たす自主防災組織の結成と育成を図ることを目的に秋田県が主催しているもので、当日は町内21自治会から31名の方々が参加しました。

研修会では、秋田大学地域防災減災総合研究センターの水田教授から、「秋田県の歴史に学ぶ防災・減災

の基礎知識」と題して、私たちの生活とは切っても切れない自然現象に関する講話があり、自然災害への備えや災害発生時の心得を学ぶ機会となりました。

また、秋田地方気象台の小池地域防災官からは、「経験したことのない大雨、そのときどうする？」をテーマに、気象台から発表される防災気象情報の見方や活用方法を学んだほか、風水害発生のおそれが生じた際の避難先や避難経路、安全に避難するためのタイミング、声かけが必要な近隣住民の状況などについて、各自治会の状況を踏まえて話し合ってもらいました。

参加者からは、「災害に見舞われることを想定して、普段から備えたい」「命を守るために必要な行動を考えたい」「季節や時刻、地域の状況を踏まえた避難を考えたい」などの声が寄せられ、防災意識の高揚につながることができました。

現在、当町では18自治会で自主防災組織が結成され、地域コミュニティにおける防災意識の高揚に努めても

らっています。
災害時には、相互扶助が一層重要になることから、自主防災組織の結成促進が望まれるところではあります。ですが、組織化が叶わなくても、地域コミュニティにおいて災害発生時の被害の防止・軽減に対する意識高揚が図られ、町民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」との自覚を持ち、自らの判断で避難行動をとることが重要であり、今後も研修や訓練など、防災に対する理解を深める機会を設けていきます。

▼道の駅十和田湖のオープンについて

10月10日、竣工式典は、秋田県知事をはじめ、環境省東北地方環境事務所長、国土交通省能代河川国道事務所副所長など、多くのご来賓を迎えて、挙行しました。また、十和田湖養魚事業

を成功させるとともに、十和田湖を広く世に知らしめた功労者であり、生涯を十和田湖開発に捧げ、「十和田湖開発の父」ともいわれている和井内貞行翁夫妻の銅像除幕式が「十和田湖畔に和井内貞行の銅像を立てる会」の主催により執り行われました。

道の駅十和田湖は、青森県と秋田県の県境にあり、小坂町内に立ち並ぶ近代化産業遺産、鹿角地域などに点在する縄文遺跡群へ向かう玄関口として、さらには、秋田県から青森県の奥入瀬溪流方面へ向かうドライブの中継地点として大いに期待されているところです。

10月12日から道の駅十和田湖がオープンし、12日、13日の2日間にわたり特設ステージでの歌や踊り、各種飲食店の出店など、オープニングイベントは紅葉の期間も重なり大盛況でした。オープンから11月4日の三連休終わりまでの24日間の